

義務教育学校の先進地視察について

令和5年6月 川岸学園設立準備室

1. 視察のねらいについて

○横浜市の義務教育学校「霧が丘学園」及び「緑園学園」の2校を視察。

○霧が丘学園は従来から小中学校が併設されており、両校の校舎間を接続する渡り廊下を設置。義務教育学校として開校から7年が経過し、カリキュラムの効果や課題、異学年交流の工夫等を視察。

<開校のあゆみ>

平成18年4月	霧が丘小学校開校(3小学校を統合)
平成22年4月	霧が丘中学校開校(小中一貫校)
平成28年4月	霧が丘学園を開校(義務教育学校・施設隣接型)

○緑園学園は中学校を新設し、令和4年度に開校。開校準備に向けた取り組みや最新の施設を視察。

<開校のあゆみ>

令和元年9月～	2小学校を統合し、小学校の改修と隣接敷地に後期課程(中学校)校舎を新設。
令和4年4月	緑園学園を開校(義務教育学校・施設一体型)

2. 霧が丘学園について

【特色ある取り組み】

- ① 1～4年生『基礎・基本の習得』、5～6年生『小中接続期』、7～9年生『学びの発展期』と位置づけ、9年間のつながりを意識した授業づくり。⇒小中教科会で情報を共有。
- ② 小学校と中学校の教員の乗り入れ授業を実施。
 - ・国語、数学 … 小学校の先生が中学部で授業を行う。
 - ・図工・美術、音楽 … 中学校の先生が小学部で授業を行う。
 - ・**6年生**の3月の授業で中学校の先生が社会、理科、数学の授業を行う。
- ③ **6年生**から8年生による音楽会(合唱コンクール)の開催。
- ④ 生徒会役員選挙に**6年生**が参加し、投票を行う。
- ⑤ 部活動について、**6年生**の11月に体験入部、12月から本入部。
- ⑥ 学校運営協議会では、学校の行事や全国学力・学習状況調査の結果を報告。地域との結びつきが強く、夏季休暇に実施する海外研修等において、地域がその費用を負担。



学びの連続性を意識し、円滑に中学部に進級できるよう教育活動を実施

【課題について】

- ・教職員の連携を密に行うため、毎月、小中合同会議、年4回、合同授業研究会を実施。職員室が分離していることから、効率的な会議運営を心掛けている。
- ・特色ある取り組みを実施する上で、小中の教職員間で調整等が必要となり、教職員の負担増。
- ・小学校で一度不登校になってしまうと、中学校では6年生と7年生で顔ぶれが変わらないため、なかなか抜け出せない。

3. 緑園学園について

【特色ある取り組み】

- ① 独自教科として、後期課程において、「表現・未来デザイン科」を創設。ダンスやプログラミング、舞踊等、11コースから選択。表現方法を学び、グローバルな社会で活躍するための基礎を養う。
- ② 6年生と7年生の教室を同フロアに配置し、中1ギャップの解消を図る。
⇒7年生の定期テスト中はホワイトボードを活用し、6年生に周知する工夫。
- ③ メインランドとサブランドがあり、体育祭(中学部)と運動会(小学部)の合同練習を実施。体育祭当日はベランダに出て、小学部の子どもたちが応援。
- ④ 1000人が収容できるメインアリーナで、1年生から9年生までの合同入学式や文化祭等を実施。
⇒上級生が下級生の手本となる意識が芽生える。
- ⑤ 部活動について、6年生から1月以降、体験入部を実施。



施設一体型のメリットを最大限に活かした異年齢交流を実施

【開校準備に向けた取り組み】

<教育委員会>

- ・「開校準備委員会」を組織し、その下に部会を設置し、内容の検討。
- ・教育課程等の検討。
- ・校歌・校章・標準服の検討 *校歌は、開校後に子どもたちと一緒に制作。
- ・開校式典の準備
- ・設置手続き(条例や規則の改正、通学区域の設定等)
- ・職員人事

<学校における教育活動>

- ・行事や宿泊・校外学習
- ・時程(小学校・中学校の授業の時間割)
- ・PTAの組織検討
- ・学校納入金等の口座振替の手続き
- ・部活動の選定

【課題について】

- ・地域柄、私立中学校へ進学する子どもが多く、開校前は4～5割の子どもが私立中学校へ進学。
*開校後は3割程度に減少。
- ・児童・生徒の増加により、教職員数も大幅に増加。小中一貫校を経験している先生が1名のみで、カリキュラムや異年齢交流等の調整をスムーズに行う職員の体制強化が喫緊の課題。
⇒新たに赴任してくる先生には、事前に面談を実施し、義務教育学校の説明を行う。